

令和 6 年度第 3 回総合計画審議会

意見	回答
2. 今後 10 年の重要なテーマについて (9) 災害への対策→3 行目の「早朝に」は間違いでしょうか。	「早朝に」を「早期に」に修正しました。
3. 将来像の「挑戦」は赤色のイメージです。	「挑戦」は赤色、「循環」は緑色、「守り」は青色に修正しました。
4. 6 つの目指すまち→④白井らしい環境が残るまちの項目に最後の 2 行「また、老朽化した～」は必要と感じませんでした。 未利用地を有効活用したい旨を記載するのであればその文言だけでよいのではと思いました。	最後の 2 行「また、老朽化した～」につきましては、今後 10 年の重要なテーマ (3) 良好な住環境の維持・整備に記載した建物の老朽化などへの対応をこちらに記載した形となります。 未利用地を有効活用することは、無関係ではありませんが、まちの新陳代謝 (循環) のためには、今後老朽化していく建物そのものに対してのアプローチが必要と考えています。 これから策定する事業に、このことを反映させるために、この文言はこのまま残すことにします。
5. まちづくりの推進の考え方→2 行目の「将来像に基づく取組の～」がまわりくどく感じました。	以下のように修正します。 修正前 『将来像と 6 つの目指すまちの姿の実現にあたっては、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。将来像に基づく取組の方向性を多様な主体と共有するために、将来像の実現に向けたまちづくりの推進の考え方を以下に示します。』 修正後 『まちづくりを推進するためには、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。6 つの目指すまちの実現に向けて、まちづくりの推進の考え方を以下に示します。』

5. まちづくりの推進の考え方(3) <分野横断>での取組→5行目「分野にとらわれず」が重複しています。	重複箇所を削除しました。
将来像最終候補はどの案もよく検討されていると思いますが、「白井市らしさ」や「白井市の売り」がいまひとつ出ていないと思います。 将来像を「循環」「挑戦」「守り」と抽象化、理念化していくと、どうしても最終案のような白井市でなくとも使えるものになると思います。 (特徴1) 都心に近い田園都市 (特徴2) 安全な住環境の台地都市 (特徴3) まだまだ未開発の多い多様性のあるまち をテーマに、そして具体的な「ことば」として作成したほうが白井市のアイデンティティが鮮明に出てくると考えます。 例えば……都チカ 安心台地のふる郷で 若い(多様な)未来に挑戦できるまち	「白井市らしさ」や「白井市の売り」を追求し、広めていくことが重要であることは言うまでもありませんが、ここでの将来像はシティプロモーションとは切り離し、あくまでも、10年後の目指す方向性(ビジョン)を掲げるものとします。 そのため、この度の将来像は目指す方向性である「循環」「挑戦」「守り」の3つの要素を抽象化、理念化したものになることを御理解いただければ幸いです。 いただいた御意見の特徴を、白井市の武器として事業の推進に活かし、事業推進とともにシティプロモーションとして、対外向けに発信することは重要と捉えています。
最終的に第5次総合計画同様に冊子にする場合、冊子はどこに配布され、誰に読んでもらうためのものでしょうか？ 広く見てもらうとなると、まだ文章量が多いな、と思います。 第5次の10年前と異なり、Instagramを代表とするSNS時代です。 今はこの文章量を見ただけで読まないと思います。 イメージ写真やイラスト、図表→詳しく知るために文章を読むために、視覚情報を多用するといいと思いました。	総合計画につきましては、ページ数の多い冊子であると、広く周知しづらいため、わかりやすさに特化した概要版を作成する予定です。 配付方法は未定ですが、広く周知する方法を模索していきます。

①若い世代が定住したいまち ③自ら学び育ちチャレンジできるまち ・本市児童生徒の学力が低下していると聞く。特に自学を苦手とするアンダーアチーバーにとっては個別指導が欠かせないのだが、働き方改革により教員による該当生徒への勤務時間外の指導も十分にはできなくなるだろう。となると保護者が考えるのは「塾」となる。同様に、運動や音楽・美術等に係る能力を伸ばすべく、子どもを部活動に代わるクラブや習い事に通わせる家庭も増えるものと思われる。いずれも、通うには安くない「月謝」がかかることになる。つまり、これからは子どもの能力を伸ばすにはお金がかかるということになる。経済的に塾やクラブ・習い事などに通わせることが困難な家庭への支援はどうあるべきか市としても考えていかなければならないだろう。 ・学力を保障してくれる、更には学力を向上させてくれる学区内に(新しい)家を求めようとする保護者も少なくない。 ②誰もが交流し支えあえるまち ・引きこもりの実態把握・・・本市の不登校児童生徒数は印旛郡市内でも多い方だと認識している。中学卒業後に解消した方もいるだろうが、引き続き自室や自宅から出ない方も多いのではないかと危惧している。個人情報保護の関係もあり調査は困難を極めるだろうが、その方自身やご家族だけでなく、市や地域にとっても重要課題の1つになるだろう(理由は略す)ことゆえ、実態把握は必要だと考える。不名誉なことだが、かつて長欠(当時の呼称)日本一と言われたことのある本市だからこそ、先ずは他市町	本基本構想で掲げる方向性の基、基本計画や実施計画を策定する際の参考とさせていただきます。
--	---

村に先駆けて実態把握に着手したらどうか。 ・本市は他市に比べて、道路の白線がところどころ消え見えづらくなっていたり、街中や公園の中に設置されている(た)立て札・看板が倒れたまま・壊れたままになっていたりしていることが多いと感じる。市民にとっても、用事等で市外から来られた人たちからも、安心・安全なまちだと思ってもらえるよう定期点検・補修をお願いしたい。 ・シニアカー等の増加・・・本市でも、道交法上歩行者扱いのシニアカー利用者が微増している。曜日や時間によってまちまちだが、平日では朝・夕の通勤・通学時間帯が、土休日ではお昼頃が、シニアカー利用者にとっては魔の時間帯のようだ。歩道は、シニアカー以外にも歩行者、自転車・キックボード(許可されている場合のみ)などが通る。歩行者と自転車のヒヤリ・ハットは毎日のように起こっている。シニアカー利用者が事故に巻き込まれないよう、現行の歩道上の交通ルールを徹底できないものかと思うが、子ども以上に大人が手本を示せないのだからそれは無理だろう。条例等を作っても、「歩道上の交通ルール」を徹底させた方がよいと考える。 ④白井らしい環境が残るまち ⑤新しい産業が栄えるまち ・仕事がら、高齢者と話す機会が多い。本市は『住みやすいまち』であるという声が多く聞かれる。逆に心配なことは、『便利で豊かなまちになっていくのは嬉しいが、飲み水の汚染、電波や音による健康被害、リサイクル施設での自然発火』だと言う。これ	
---	--

らは、高齢者だけではなく、全市民にとっての願いでもあるだろう。地域住民に理解が得られ、環境や安全・安心を最優先した企業等のみの誘致をお願いしたい。 ・梨を使った製品の開発・販売促進・・・梨農家や梨畑の減少等の課題を解消できる手立てがないのであれば、市や梨業組合がリーダーシップを発揮して例えば次のような取り組みも進めていく価値があると考ええる。市や梨業組合が中心となり、市内で生産・販売されている梨を使った製品や梨を使った料理のレシピを、マスコミ・SNS等を使って(ホリさんとなし坊ファミリーが出演してほしいが…)大々的にPRしたり、食品メーカー・大学と連携を図り新製品の開発・販売促進をしたりする等、梨一辺倒から梨プラス梨製品の開発・販売への移行を図っていくべきと考える。 ・本市は他業種・多職種が存在する東京が通勤圏内にあるため、新たな企業誘致イコール若者の地元就職率向上とはならない。仕事や大学は東京で、生活は白井で、という傾向は今後も続くだろうと考える。	
--	--